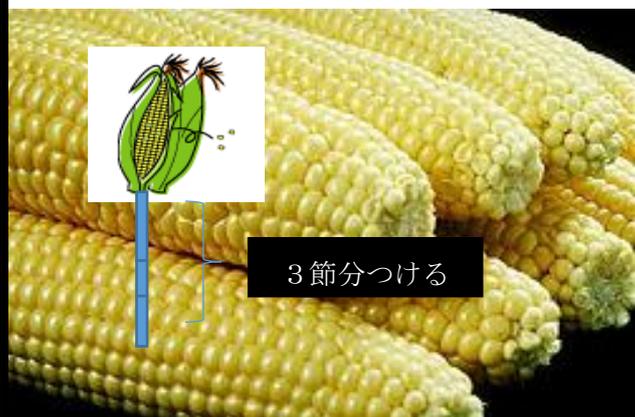




○冷夏の予想一変、雨乞いしたい猛暑の夏

梅雨入り後は気温がやや低めの経過、日照も少なめでありましたが、7月の中旬以降天候は夏らしい状況となっております。一時期冷夏と予想されていたものの、高温・干ばつが続いており、また、梅雨明け後は更にしびれるような暑さとなっております。農作物にとってはそろそろまとまった降雨が必要となっております。この時期でありますと、畑地での水分確保は重要であります。灌水設備がないところは天候にまかせるしかありませんが、収量増につなげるには検討が必要です。また、害虫についてはアブラムシ・ハダニの被害が顕著に見えるようになります。実際に散見されるようになってからは難防除となりますが、古い葉の摘葉を行い、薬剤がかかりやすいように整理してから農薬の散布を心がけると新しい葉への被害は少なくなりますので、最後まで気をゆるめず防除を行いましょ。



3節分つける

○夏野菜・とうもろこしを美味しく食べる方法

とうもろこしの鮮度の低下は激しく、「お湯を沸かしてから収穫に行け」と言われるほどだそうで、収穫後は1日1~2%ずつ糖度が低下していきます。収穫後すぐに調理ができれば良いのですが、なかなかそういかない場合もあります。先日の農業新聞に茎を3節分残して収穫を行うと冷蔵しなくとも8時間ほど収穫時と同等の糖度が保持できるという話題がありました。できれば美味しく食べたいですよ。試してみてくださいはいかがでしょうか。

○根こぶ病について

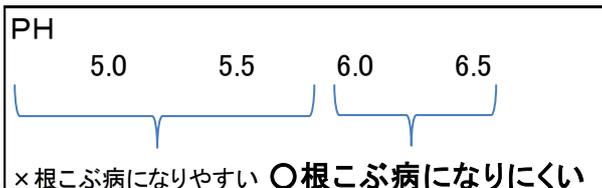
毎年、営農部に根こぶ病の薬剤を使用しても根こぶ病にかかったと相談にいらっしゃる組合員の方がいます。次の点を注意してみてください。①苦土石灰などの土壌改良剤の散布②高畝での栽培③播種時期を遅らせてみる＝生育日数を短い種子に換える(85日→80日→75日)といった対処法があります。



(例)金山白菜



根こぶ抵抗性の意味



また、良く種子で品種の後にCRと書かれているものがあります。CRって何？と疑問に思ったことはありませんか。CRとは根こぶ病抵抗性という意味で根こぶ病にかかりにくい種となります。ひとつひとつ問題を解決していけば、秋により良い白菜が収穫できると思います。

○指導部門・農薬飛散(ドリフト)の注意のお願い

前回の夏農号で農薬散布の重要性についてお話したかと思いますが、農作物を病害虫から守る上では非常に重要なことではあります。しかしながら取り扱いには十分気をつける必要があります。適用外作物で農薬が検出されれば出荷物の回収等リスクは莫大なことになりかねません。現在の残留農薬試験の精度は学校で使用されるプールに農薬を数滴垂らしただけでも検出されるといった高精度の機械となっております。作物の盛期であり、単価が高くなる時期の農薬使用回数は多く、自分が栽培している作物に限らず、近隣圃場への配慮が必要となります。

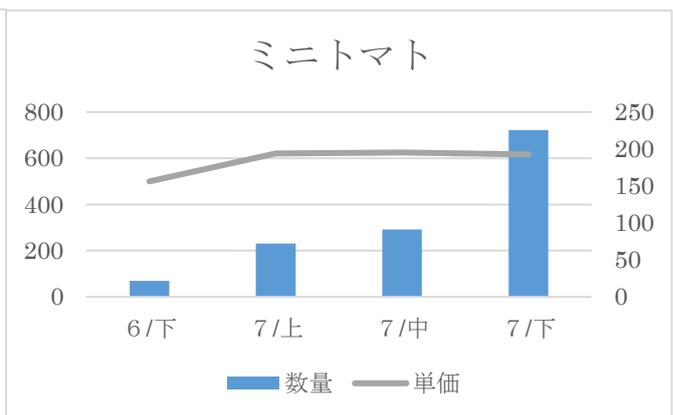
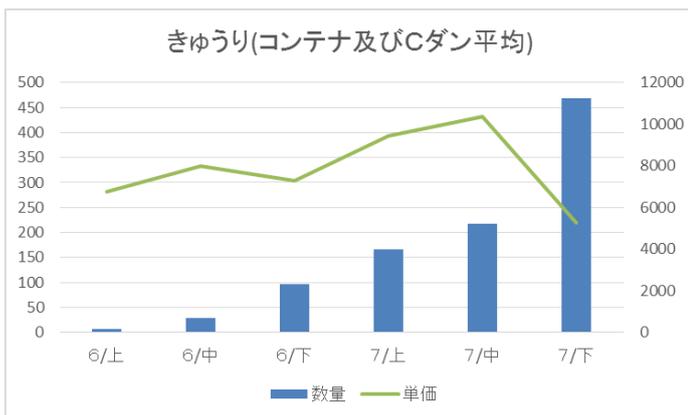
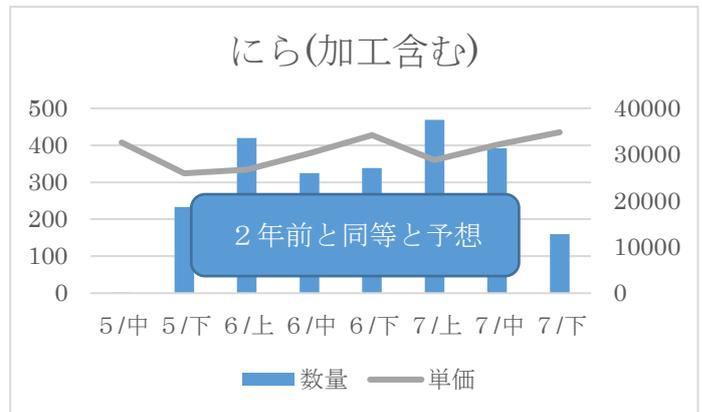
チェックポイント

- ①事前に周辺の状況を確認。安全な散布方法を検討しよう。
- ②近隣の農家に収穫などの予定や、使用農薬についての情報共有を行うように心がけましょう。
- ③作物の生育状態に合わせ、適正な散布液量に調整しよう。
- ④風の状況を確認し、飛散の恐れがないときに散布しましょう。



○販売部門・青果物販売傾向(2019年4月～7月途中集計)

今年の7月販売傾向については、果菜類が梅雨入り後の低温・日照不足により、市場入荷量が少なく、高値の取引が続いていたところ、海の日を境に高値の反動から落ち着いた市況となったのが特徴的でありました。市場担当者からはお盆前に市況の回復が見込まれるとの情報を受けており、これからの販売に期待致したいと思えます。販売担当としては市場との連携を更に密にし、金山産野菜の市況の底上げを図っていきます。



○資材部門・葉茎菜類のアオムシ防除について

これからの葉茎菜類の栽培においてアオムシ防除は必須となります。株が小さきときはネット等で害虫から守ることもできますが、それに加え下記の薬剤が効果的です。

フェニックス顆粒水和剤

他の剤とは違うタイプの殺虫剤で各種薬剤に抵抗性の発達した害虫に有効で、幅広い種類のチョウ目幼虫に持続した優れた効果を示します。ただし、本剤は植物体内への浸透移行性による効果は弱いのでかけ残しのないように葉の表裏に十分に散布することがポイントとなります。

100 g 2,370 円(税込)

250 g 5,590 円(税込)